

【史料紹介】

鴻池合資会社資料室蔵「山中家寶」

中野朋子（大阪歴史博物館）

解題

かつて大坂今橋に本拠を構えた鴻池善右衛門家（以下「鴻池家」と呼ぶ）が所蔵し、平成九年（一九九七）に大阪歴史博物館へ寄贈された裂類の共同研究を行うにあたり、鴻池合資会社資料室に残る裂類に関する史料の再調査を許された。今回紹介する史料はそのうちのひとつで、「山中家寶」と表書された裂類の目録を転写した控録（以下、「控録」と呼ぶ）である。

控録には二件の目録が転写されている。筆写時期は明らかではないものの、紙質から勘案して近代になってからの写しであろうと考えられる。収載されているのは「箆筒袋切目録」（原本は文政五十年、一八二二）と題される目録の写しと、「桐文庫切目録」（原本は同じく文政五十年、一八二二）の写しである。

この控録に関連する作品群としては、鴻池家に伝来した、裂箆筒一棹、桐文庫一合の存在が判明している。それらは、昭和七年（一九三二）の昭和天皇の大阪行幸に際して大阪府立貿易館において天覧に供されるとともに翌八年（一九三三）二月に同会場で開催された「臨幸記念 名家秘藏品展覧会」において「山中家寶」として、初めて一般に公開

されたが、現在ではすでに鴻池家を離れている。近年、上記の裂類のうち、裂箆筒およびその収納裂が再確認され、研究書が刊行された（『名物裂の研究―鴻池家伝来の解袋―』、二〇一八、国書刊行会）。再発見された裂箆筒には目録も付属しており、その表題はまさに「箆筒袋切目録」、内容も控録と合致するものであることが判明した。しかしながら、再確認された裂箆筒と同時に天覧、展観に供された「桐文庫」一合および収納裂については、昭和八年二月の展覧会開催時に刊行された図録に当時の写真記録は残るものの、その全体像や実作品は確認できていない。

そこで、注目されるのが今回紹介する控録なのである。控録収載の「箆筒袋切目録」の内容が「臨幸記念 名家秘藏品展覧会」に出品の裂箆筒の目録と合致するということは、控録に同載の「桐文庫切目録」も「臨幸記念 名家秘藏品展覧会」に出品された「桐文庫」の内容を記録した目録の写しである可能性が高い。そのため、今後の実作品の再確認に向け、控録の翻刻を行うこととした。

凡例

1. 本翻刻は、鴻池合資会社資料室蔵「山中家寶」に基づくものである。
2. 資料には頁数の記載はないため、表紙、裏表紙以外の丁数については「」内に次のように示した。

(例) 一丁表の場合には「1オ」、一丁裏の場合には「1ウ」

3. 白紙の丁には(白紙)と記した。
4. 原史料は、墨書に朱書が加えられている。本翻刻にあたっては朱書の部分をゴシック体で提示するとともに、抹消など特殊な朱書の場合には()内に朱書である旨を示した。
5. 各行冒頭の朱書は、「二」の右に書かれているが今回の翻刻にあたっては行頭に配置している。また各行末に配置した朱書は裂名の下部に小さめに記入されたものであるが、便宜のため行末に配置している。
6. 六丁裏から掲載される「桐文庫切目録」には挿図がある。挿図部分については翻刻せず、写真によって掲載する。

	〔表紙オ〕	
	山中家寶	
	〔表紙ウ〕	
	白紙	
	〔1オ〕	
	簞笥袋切目録	
	古金襴	
壹	一 小鶏頭 紅	
貳	一 大鶏頭 紅	
三	一 大燈 紅	
四	一 長楽寺 小堀枝切トモ云 紅	
五	一 長楽寺 大之大燈トモ云 紅	
六	一 桑山 紅	
七	一 上柳 紅	
八	一 筒井 紅	
九	一 富田 紅	
拾	一 雲山 上柳同模様也／雲山之茶 入二掛アリト云 紫地	
拾一	一 嵯峨桐 花色	
拾二	一 大花麒麟 萌黄	
拾三	一 劍先 花色	
拾四	一 花兎 模様替り 天鷲絨	

〔1ウ〕

- 拾五 一 花兔 小方 天鷲絨
 - 拾六 一 蜀金 色替
 - 拾七 一 橘屋 二人静トモ云 紫
 - 拾八 一 花麒麟 紫地
 - 拾九 一 大花兔 茶地
 - 貳拾 一 畠山 萌黄
 - 貳拾一 一 寶珠 千躰佛ト云 紺金地
 - 貳拾二 一 火燈口 龍 萌黄
 - 貳拾三 一 火燈口 茶地
 - 貳拾四 一 花麒麟 小方 萌黄
 - 貳拾五 一 花兔 小方 白地
 - 貳拾六 一 大友菱 天鷲絨
 - 貳拾七 一 興福寺 紫
 - 貳拾八 一 藤言 萌黄
- 〔2才〕
- 貳拾九 一 石畳 雀模様 萌黄
 - 三拾 一 一英紋 白地
 - 三拾一 一 永觀堂 白地
 - 三拾二 一 花兔 小方 萌黄
 - 三拾三 一 嘗錢 紺地
 - 三拾四 一 小蔓 白地
 - 三拾五 一 小蔓 白綾地
 - 三拾六 一 小牡丹 萌黄
 - 三拾七 一 大牡丹 二重蔓 片身 白地
 - 三拾八 一 高臺寺 紫地
 - 三拾九 一 高臺寺 天鷲絨
 - 四拾 一 高臺寺 紺地
 - 四拾一 一 中牡丹 萌黄

〔2ウ〕

- 四拾二 一 雲雀 紺地 安樂庵
- 四拾三 一 健仁寺^(マ) 安樂庵 丹地
- 四拾四 一 龍ノ鳥 安樂庵 紺地
- 四拾五 一 中牡丹 安樂庵 紺地
- 四拾六 一 寶盡 底ナシ 安樂庵 金地
- 四拾七 一 中形雲 安樂庵 淡黄地
- 四拾八 一 圓龍 金欄 萌黄
- 四拾九 一 紹知 白地
- 五拾 一 大雲 安樂庵 丹地
- 五拾一 一 和久多 丸紋 糸入
- 五拾貳 一 金剛
- 五拾三 一 撚金 袋二ツ分 紫

〔3才〕

- 五拾四 一 輪違 金欄 米一切 紫地
- 五拾五 一 針屋 白地
- 五拾六 一 大徳寺 白地
- 五拾七 一 本願寺 副状在之 白地
- 五拾八 一 萌黄金地花兔 三切
- 五拾九 一 小鶏頭 紅

(以下、白紙)

〔3ウ〕

純子

壹 一 白極

貳 一 正法寺

三 一 本能寺

四 一 宗薫

五 一 藤種

六 一 三雲屋

七 一 笹蔓

八 一 笹蔓 織留

九 一 有樂

拾 一 住吉

拾一 一 鎌倉

拾二 一 渦

〔4才〕

拾三 一 定家

拾四 一 宗悟

拾五 一 袴腰

拾六 一 道元

拾七 一 珠光

拾八 一 亡羊

(以下、白紙)

〔4ウ〕

漢島

壹 一 鎌倉

貳 一 鎌倉 雪之下

三 一 彌三右衛門

四 一 芳野

五 一 望月

六 一 彌兵衛

七 一 中尾

八 一 緘

九 一 太子

〔5才〕

天目袋

一 中牡丹 白地

(以下、白紙)

〔5ウ〕

年、此處二而改印形致す事

天保三壬辰年

〔辰〕〔巳〕〔午〕〔未〕〔申〕

宝曆之頃宗知居士

御調被為置候目

録書其後品数相立

候上年数相立見紛

敷相成候二付書改候也

文政五壬午年季秋

山中幸澄

筆者

幸年

〔6才〕

(白紙)

桐文庫切目録

一 劍先 紺地

豎 壹尺壹寸

横 壹尺壹寸九步

一 折枝切 紅地 小堀所持

豎 壹尺三寸六步

横 四寸九步

一 花麒麟 紫地

豎 壹尺壹寸五步

横 五寸七步

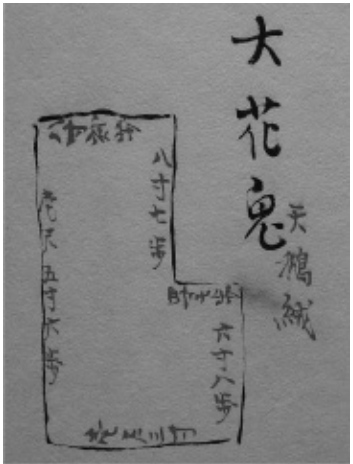
〔7才〕

一 大内桐 紫金地

豎 九寸二步

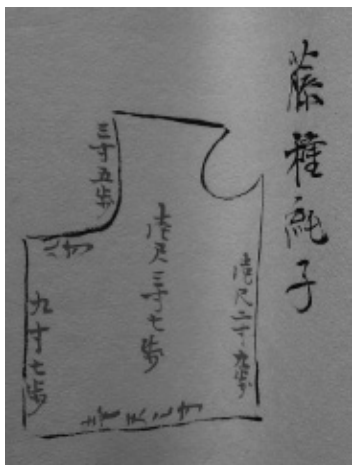
横 九寸壹步

一 大花兔 天鷲絨



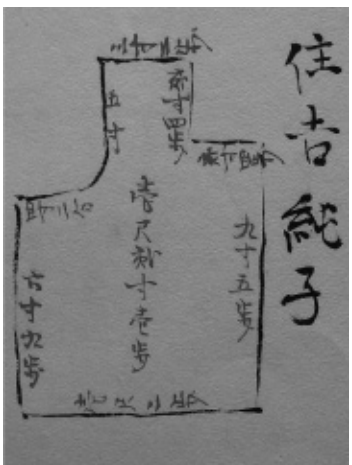
挿図

一 藤種純子



挿図

一 住吉純子

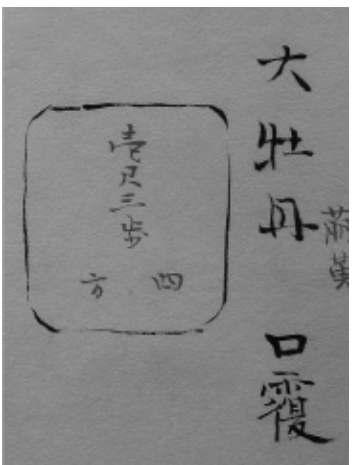


挿図

右三品一箇二入

〔7ウ〕

一 大牡丹 萌黄 口覆



挿図

一 大牡丹 白地 口覆
壹尺四方

一 大牡丹 白地 二（朱書）歩切

豎 壹尺四寸二歩

横 四寸四歩

豎 五寸貳歩

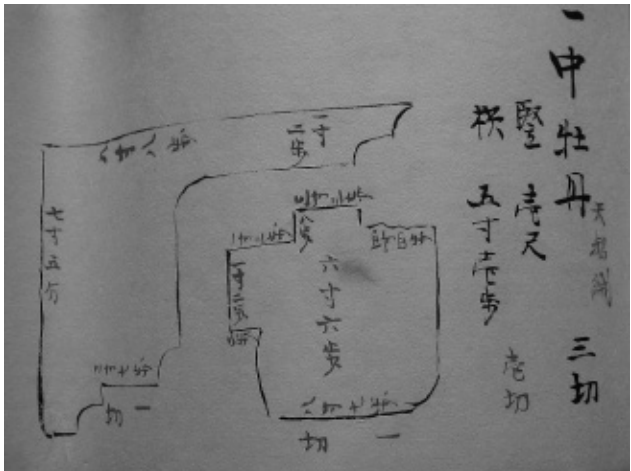
横 二寸九歩

〔8才〕

一 中牡丹 天鷲絨 三切

豎 壹尺

横 五寸壹歩 壹切



插图二

一 中牡丹 白地

豎 貳尺七寸

横 三寸二歩

一 和久多 銀色繪入 切拔袋

底下毛

豎 壹尺二歩

横 四寸五歩

〔8ウ〕

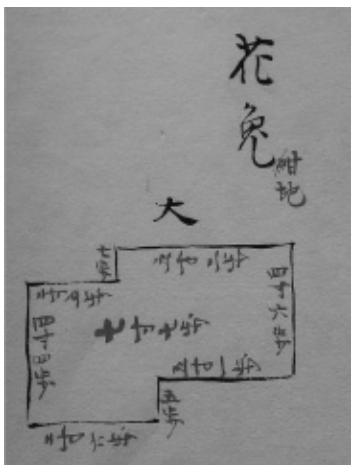
嵯峨桐 紺地

豎 五寸貳歩

横 八寸七歩

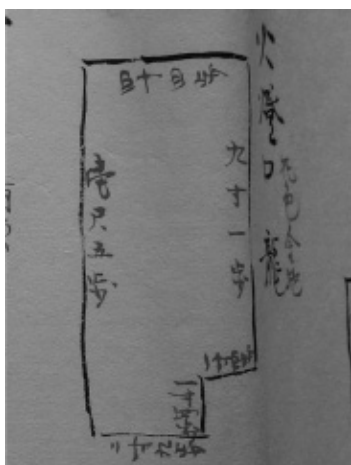
花兔 紺地

大



插图

火燈口 龍 花色金地



插图

小蔓 萌黄 切拔袋

底下毛

豎 四寸七歩

横 七寸四歩

和久田 白地 同断

豎 四寸六歩

横 九寸壹歩

右五品一箱二入

〔9才〕

鎌倉漢島 鶴岡トモ云 切抜袋

底下モ

豎 五寸五歩

横 九寸

彌兵衛漢島 同断

豎 壹尺五歩

横 五寸五歩

望月漢島 織留 同断

豎 五寸六歩

横 四寸

豎 四寸九歩

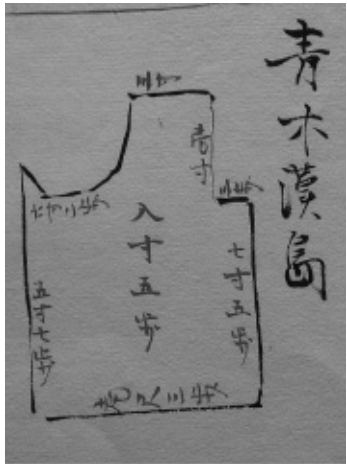
横 四寸四歩

姫路漢島 同断

豎 壹尺

横 五寸 耳ヤレ有之

青木漢島



挿図

右五品一箱二入

〔9ウ〕

笹蔓純子

豎 六寸

横 壹尺一寸四歩

海黄 雲 萌黄

豎 壹尺三寸四歩

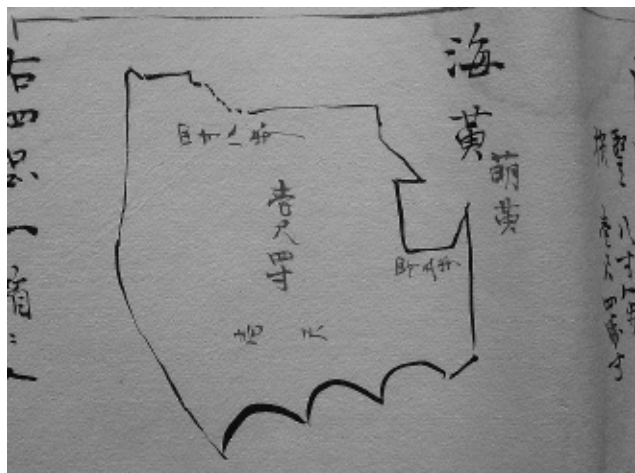
横 壹尺四寸

海黄 牡丹 紫

豎 八寸八歩

横 壹尺四（朱世）寸

海黄 萌黄



挿図

右四品一箱二入

〔10才〕

一 上代糸入縫紗 三切

〔11ウ〕
〔白紙〕

法隆寺漢島

〔裏表紙〕

豎 壹尺貳寸

〔白紙〕

横 六寸

二重蔓中牡丹 白地

豎 壹尺八步

横 六寸六步

右二品一箱二入

〔10ウ〕

天保四癸巳年改濟以来
年々改印押候事

〔巳〕〔午〕〔未〕〔申〕

〔以下、白紙〕

〔11才〕

宝曆之頃宗知居士

御調被為置候目録

書其後年数相立候

上品数相加ハリ見紛敷

相成候ニ付書改候也

文政五壬午年季秋

山中幸澄

筆者

幸年